

ボジョレー速報 2020 年

2020 年のヌーヴォーの仕込みがいよいよスタートした！

今年は、コロナ危機をよそにブドウ成長ペースはかつてないほど早かった。また春に遅霜がなかったことと開花が順調だったことで、今年はブドウの房にも恵まれた。夏は一時猛暑と水不足の不安があったが、8月21日に降った恵みの雨によりその不安は一気に解消された。ブドウの品質にも収量にも恵まれ、まさに当たり年の条件が全て整った2020年！果たしてカリーム、ジャン、ケヴィン&フレッドはどのようなヌーヴォーを作り上げてくるのだろうか！?

◇ カリーム・ヴィオネ

今年のヌーヴォーの収穫は8月22日に行った。ドメーヌを始めて以来一番早い収穫だ。8月は猛暑と日照りが続いていたが、10日に22mm、16日に8mm、そして収穫前日の21日に30mmの雨が降ったおかげで、最終的に果汁を多く含んだブドウを確保することができた。今年のブドウは、猛暑の影響もあり成熟はまちまち。収穫時の時点ですでに潜在アルコール度数が13%を超えているブドウもあれば、一方でまだヴェレゾンが完全に終わっていない口ゼ色ブドウもあった。未熟なブドウは酸を補填してくれるため、今年のような猛暑の年は選果せず一緒に混ぜて仕込むのが私のスタイルだが、梗や種などのタンニンの青さを抽出しないよう注意を払い、マセラシオンは10日間と短めに抑えた。また、今年から醸造タンクをセメントタンクから冷却装置付きのステンレスタンクに変え、温度を22℃前後に保ちながら低温で仕込んでいるが、今年は発酵に勢いがあり、デキュバージュとプレスを終えた9月1日の時点で残糖は2g/L以下とほぼ発酵は終わっている。今年のヌーヴォーの特徴は果実味がフレッシュで爽やかな酸があること。アルコール度数も12%前後に収まりそうで、ミレジムの的には2007年や2008年を彷彿させる酸の効いたエレガントなワインが出来上がりそうだ！



プレス、アッサンブラージュ後のヌーヴォー



デキュバージュ作業をするノエミー

◇ ジャン・フォワヤール

今年のヌーヴォーの収穫は8月27日に行った。8月の収穫は2003年以来だ。ただ、2003年と違い今年は果汁が多く酸があり、久々にボジョレーらしいブドウを収穫できた。8月は猛暑と水不足が続いたためブドウはかなりバテ気味だったが、8月21日の夜に20mmほど雨が降ったおかげで一気に渴きは癒された。収穫したブドウは、猛暑により一部焼けたもの以外はほぼ完璧で、果汁も多く含んでいた。現在はマセラシオン中なので正確な収量は言えないが、おそらく50hl/ha近くはあるだろう。今年は仕込みに時間の余裕があるので、通常ワインと同じように収穫したブドウを冷蔵庫で1日冷やしてからキュバージュを行っている。発酵にも勢いがあり、このまま順調に行けば9月中旬には発酵が終わる予定だ。毎朝発酵の具合をみるたびに試飲をしているが、味味的にはピュアで果実味が非常にエレガント！特に、今年の夏は昼夜の寒暖の差があったことで、ブドウ自体は早

熟でもフェノールは十分熟しているから、香りも期待できそう！ミレジムの2014年や2016年のような個人的に好みな、エレガントで香り高いスタイルに仕上がることを予想している。



収穫風景



ブドウを冷蔵庫で1日冷やす

☆ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

今年のヌーヴォーは、ブドウの熟しが早いので、マルシャン村のブドウのみで仕込もうと考えている。ちなみに、マルシャン村のブドウ100%での仕込みは、初リリースの2014年以来、実に6年ぶりだ。(マルシャン村は標高があるためブドウが晩熟で期日のあるヌーヴォーの出荷までに例年ブドウの熟成がすべては間に合わないため、通常は熟したブドウだけ収穫し、早熟なレーニエ村のブドウにアッサンブラージュしている)。収穫日は9月7日を予定している。今年のブドウは、ミロンダージュ(結実不良)が少なく、いつもより粒が大きいのが特徴。8月中旬まで少し水不足気味ではあったが、8月21日にまとまった雨が降ったことで、結果的に果実を多く含んだブドウが収穫できそう！いずれにせよ、今年のブドウは、夏の昼夜の寒暖の差が大きかったことによりフェノールがしっかりと完熟し旨味が乗っている！ミレジムの2014年や2016年のようなエレガントなワインの年であることは間違いなさそう！



収穫直前のきれいなブドウ



今年は標高の高いマルシャン村のブドウのみ使用

その後の速報ではケヴィンも予定通り9月7日に無事マルシャン村のブドウの収穫を終えたようだ。今年は、8月の猛暑に加え十分な雨量が期待できず、ブドウが少し夏バテ気味だったが、収穫直前の8月21日まさに奇跡ともいえる最高のタイミングに雨が降ったおかげで、2020年のミレジムの評価が一気に上がりそう！ボジョレーらしい魅力が期待できる2020年の解禁日をどうぞ楽しみに！

(2020年9月2、3日訪問より)

ボジョレー速報 2020 年

2020 年の収穫まで 1 ヶ月を切ろうとしている！今年は、コロナ危機をよそにブドウはかつてないほど早いペースで成長を遂げている。また春に遅霜がなかったことと開花が順調だったことで、今年は 2018 年に匹敵する豊作が期待されている。この未曾有の危機の中、果たしてカリーム、ジャン、フレッド&ケヴィンはどのようなヌーヴォーを作り上げてくるのだろうか!?

☆ カリーム・ヴィオネ

今年の収穫は 8 月 24 日を予定している。今までで一番早い収穫だ。ヴェレゾンもフランス革命記念日の 7 月 14 日から始まった。ただ、今年は収量が多いことと、夏の猛暑と乾燥により若干成熟のスピードが落ちてきているようにも見えるので、とりあえず 24 日に一部収穫を開始し様子を見ながら収穫日を調整して行こうと思っている。とにかく、このまま行くと今年は収量の取れた 2018 年に匹敵する当たり年になることは間違いない。ただ、7 月の後半から毎日 35℃を超える猛暑が続き、ブドウもこのままでは疲弊してしまうため、欲を言えば 8 月中旬に 30 mm 程度の雨が降ってくれることを願っている。



サン＝ティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑



7/24 時点のヴェレゾン

☆ ジャン・フォワヤール

今年の収穫は 8 月 28 日を予定している。8 月の収穫は今まで経験したことがない異例の早さだ。ヴェレゾンは 7 月 20 日前後に始まった。7 月 22 日に積乱雲が発生し、雹が心配されたが、結局雨も雹も降らなかった。ブドウは今のところ病気も一切なく、収量を維持したまま成熟に向かっている。ただ、7 月の終わりから 8 月 5 日現在も猛暑と日照りが続いていて、ブドウの成熟にも徐々にだがブレーキがかかり始めている。天気予報によると 8 月 16 日前後と 22 日前後に天気が崩れるとの予報があり、このまま予報通りに雨が降れば、収量に恵まれた最高のミレジムになることは間違いないが、これが雹のリスクになるとも限らないので、まだまだ予断は許さない。



ヌーヴォー用の畑



7/24 時点のヴェレゾン

☆ フレデリック・コサール&ケヴィン・デコンブ

今年の収穫は、とりあえずレーニエ村の標高の低い畑は8月31日、標高の高いマルシャン村の畑は9月5日、6日前後を予定している。ただ、7月終わってから続く猛暑の影響により特にマルシャン村のブドウの熟しがまちなため、もう少し様子を見たいと思っている。いずれにせよ今までの中で一番早い収穫となることは間違いないだろう。ヴェレゾンではレーニエ村の畑が7月20日前後、そしてマルシャン村の畑が7月24日前後に始まった。ブドウの状態は、レーニエ村の畑は少し夏バテ気味だが、病気もなく健全な状態を保っている。一方、マルシャン村の畑は昼夜の寒暖の差から朝霧がかかりやすく、若干オイディウムが見られる。また7月22日に軽く雹に当たったが、大きなインパクトはなかった。今のところ毎日30℃を越す猛暑が続いているが、昨年の猛暑と違うところは朝の気温が涼しいこと。昼と夜の気温に大きな差があることは、ブドウのフェノールの完熟に大いにプラスであり、今年は収量だけでなく品質的にもグレート・ヴィンテージが期待される！



若干オイディウムが見られる



7/24 時点のヴェレゾン

猛暑の予報は的中。でも、そんな中3生産者ともブドウは健全な状態を維持しているようだ。今年はケヴィンの言う通り、夏でも昼夜に寒暖の差があり、これがブドウのフェノールの熟しを促し、最終的に質の高いワインへと導いてくれそうだ！ただ一方で、連日続く猛暑によりブドウの水不足が心配される。2020年がグレート・ヴィンテージへとなるカギは、どうやら収穫前の雨にかかっているようだ。さて、次はまさに収穫直前のレポートとなるが、皆の期待通り恵みの雨は降ってくれるのか！？

次のレポートもお楽しみに！

(2020年7月24日訪問(写真)&8月5日、6日電話メールレポートより)

ボジョレー速報 2020 年

今年もボジョレー・ヌーヴォーの季節がやってくる！

2019 年は、春の遅霜から始まり、夏に記録的な猛暑に見舞われるなどまるでジェットコースターのような気候のうねりの中、最終的に平均以上の収量が取れた年だった。

2020 年は、コロナ危機をよそにブドウはかつてないほど早いペースで成長を遂げている。また春に遅霜がなかったことと開花が順調だったことで、今年は 2018 年に匹敵する豊作が期待されている。世界中が未曾有の危機の中、果たしてカリーム、ジャン、ケヴィン&フレッドはどのようなヌーヴォーを作り上げてくるのだろうか!?

◇ カリーム・ヴィオネ

開花は 5 月 20 日に始まりわずか 1 週間ほどで終わった。これは例年よりも 1 ヶ月ほど早いペースだ！開花から 90 日~100 日後がブドウの収穫日と言われているので、このままのペースで行けば 8 月後半の収穫もありえないわけではない。今年は冬らしい冬がほとんどなく雨が多かった。春になると雨はピタリと止み、3 月から 5 月後半まで乾燥した天気が続いた。6 月に入り現在まで 50 mm 程度の理想的な雨が降ったことでブドウは一気に成長スピードを上げている。今のところ病気はほとんど見られず、敢えて気になる点を挙げるならば、おそらく 6 月の気温の寒暖差のストレスによるカリウム不足であろう、赤く変色したブドウの葉が多く見られることくらい。それ以外はほぼパーフェクトだ！



カリウム不足で葉が赤く変色したブドウの樹



サン＝テティエンヌ＝デ＝ズリエールの畑

◇ ジャン・フォワヤール

開花は 5 月 22 日に始まり、何も問題なく順調に終わった。今年のブドウは、直近で一番早熟だった 2011 年よりも早いペースで成長が進んでいる！巷では 8 月 20 日前後に収穫が始まると言われているが、実際ブドウの房も今年が多いので、私自身は熟するのに時間がかかり最終的に収穫は 9 月初めくらいになるだろうと予想している。今のところ病気もほとんどなくとても順調だ。今年はブドウの特徴として、珍しく実が Olivette（オリヴェット）と呼ばれるオリーブ状の楕円形となっている。この形は果汁を多く含みやすいので、このまま電などの被害がなければ大豊作が期待できるかもしれない！



早熟だった 2011 年よりも早いペースで成長中！



ブドウの実がオリーブ状の楕円形になっている

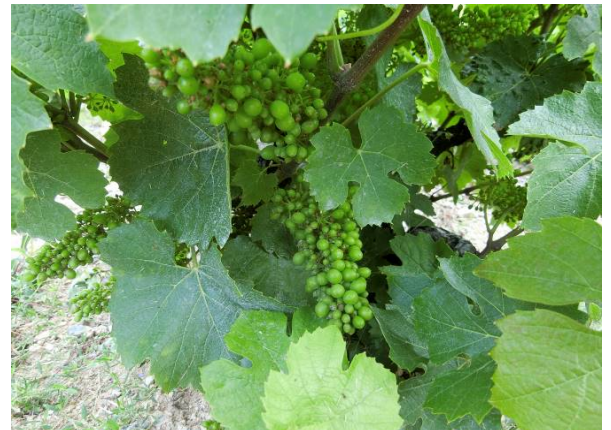
☆ フレデリック・コサル&ケヴィン・デコンブ

開花はレーニエ村の標高低い畑は 5 月 25 日頃、一方、標高の高いマルシャン村の畑は 6 月 6 日前後に始まった。マルシャン村は標高が高く開花時は気温に敏感なため通常は結実不良を起こしやすいのだが、今年は冬が暖かく春もそのまま暖かさが続いたこともあり開花はとても順調だった。結果ブドウの大きさも均一で、いつも以上に収量が期待できそう！また、今年は収穫がいつもよりも早まりそうなので、前年よりもマルシャン村のブドウのアッサンブラージュの割合を増やせるかもしれない！（ちなみに前回はレーニエ村のブドウ 70%に対しマルシャン村のブドウは 30%だった）マルシャン村のブドウは果実味がピュアできれいな酸があり、この割合を増やせば必然的にワインはエレガントでフィネスある仕上がり期待できる！

今のところ、ブドウは病気や水不足もなくとても順調に育っている。ただ、一方で今年は、土壌にカリウムと窒素が不足しているためか、葉の色が赤や黄色に変色したブドウの樹が所々に見られる。



標高が高く斜度のあるマルシャン村の畑



開花は順調で、写真のような結実不良は少ない

3 生産者とも今年は開花が上手く行き、豊作が期待できそう！また、ブドウが例年よりも早熟であることが、ヌーヴォーの醸造に大きくプラスに働きそうでもあり、今から当たり年の予感がプンプンする！さて次のレポートはまさに夏本番だが、予報で昨年のようにまた記録的な猛暑が訪れると言われている。果たしてこの予報は本当に当たるのか！？次のレポートもお楽しみに！

(2020 年 6 月 17 日訪問 (写真) & 7 月 3 日メールレポートより)